

湯島聖堂—起源は 2500 年前に遡る

受験生が多く参拝に訪れる湯島聖堂。

湯島聖堂は、徳川幕府五代将軍綱吉公の時代に誕生した。

綱吉が儒学の祖、孔子を祀ったことから物語が始まる。



湯島聖堂 大成殿入口

湯島聖堂の歴史

JR御茶ノ水駅よりすぐにある湯島聖堂は、儒教の祖である孔子を祀る聖堂であり、国指定史跡となっている。学園の中心地に建てられたこともあり、合格祈願のために、毎年多くの受験生が参拝に訪れる。

湯島聖堂が誕生したのは、儒学の起源である二五〇〇年前から時を進めること約二二〇〇年の徳川幕府五代将軍綱吉公の時代である。元禄三年（一六九〇）、徳川幕府の五代将

軍綱吉は湯島聖堂を創建し、儒学の祖である孔子を祀る孔子廟（大成殿）を作り、儒学の振興を図った。儒学を振興したのは、平和で安定した世の中を築くために必要だと考えたからだ。「思想は目には見えないが、こういう立派なものである。」と皆にわかつて貰うために、湯島聖堂は創建された。寛政九年（一七九七年）にできた昌平坂学問所は今の国立大学のようなもので、各藩の代表が学びに来た。

湯島聖堂の持ち主が江戸幕府から明治政府に変わると、湯島聖堂はい

ろいろな文教施設として使われていく。明治二年（一八六九）、今の東京大学の本部にあたる大学ができて、明治五年（一八七二）には今の筑波大学である師範学校が、明治七年（一八七四）には今の御茶の水女子大学である女子師範学校ができる。明治五年（一八七二）、日本初の博覧会が開かれる。これが後の上野にある東京国立博物館と国立科学博物館になる。同年八月には日本初の書籍館ができる。これが現在の国立国会図書館である。

三〇〇年現存する大成殿の四石

湯島聖堂は、歴史を感じる観光名所としても人気が高い。

湯島聖堂の西門を入って左へ進み、突き当りを右に曲がると「大成殿」と呼ばれる建物が見えてくる。大成殿前には階段があり、その前に、他と異なる色をしている石畳が四枚並んでいる。それらに触ると、学問成就するぞうだ。ちなみにこれらの石は、徳川幕府の五代将軍綱吉公の時代から現存するものだといわれている。